

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1970800874		
法人名	特定非営利活動法人 ふるさと		
事業所名	グループホーム ふるさと竜王		
所在地	山梨県甲斐市万才449番地5		
自己評価作成日	平成23年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年1月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

住宅街の中にあり、地域にとけあったホームです。日課のひとつである日々の散歩も季節の花や四季を肌で感じることが出来る恵まれた環境で出かけることが出来、地域の方々にも温かく見守っていただいています。利用者様一人ひとりがそれぞれの役割を持ち、いきいきと生活されています。可能な限り、利用者様の思いに沿った生活をしていただけるよう支援しています。利用者様同士の関係がとてよく微笑ましい場面もよく見られます。「よく話し」「よく笑い」「よく身体を動かして」心も身体も元気でいようをモットーに職員一同支援させていただいています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

住宅街の少し奥まった静かな所に位置する事業所は一見普通の住宅を感じさせる雰囲気をかもし出している。庭先には洗濯物が干してあってお嫁さんか娘と一緒に生活しているのかと思わせる雰囲気がある。台所はホールの一角にあり、何をするにも利用者が職員の料理する姿や匂い、音、窓からさす光の中で時を過ごしている。毎日の散歩も幾つかのコースで季節の花や四季を肌で感じることが出来る恵まれた環境で、地域の方々との触れ合いが十分できている。利用者の人数が少ないので可能な限り、利用者の思いに沿った生活が出来る支援をしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームふるさと竜王

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念と地域密着型サービスの意義をふまえた理念があり、全職員が理解し日々、利用者とのかかわりの中で心がけている。	法人の理念の他に事業所独自の、(ち)域に受け合い・(い)生き暮らし・(き)心知れた、仲になるの理念を掲げて、朝晩の申し送り時に職員は確認し利用者との係わりの中で心がけて支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に入っている。地域行事やお祭り等に参加している。日々の散歩を通し、地域の方々との会話や交流の機会を大切にしている。	地域の10月のお祭り、1月のどんど焼きに参加して焼きそばや甘酒、ジュースを戴いている。天気の良い日は毎日30分位散歩に出かけて、神社の池の鯉に餌を与えたりご近所の方々との挨拶や会話を多く持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験を受け入れ、認知症の理解をしてもらえる機会を作っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や家族にそれぞれの立場から意見をいただいている。改善が必要な内容や要望事項など職員会議等で話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議は2カ月に1回家族にも声を掛けて開催をしている。東日本大震災以降の避難訓練の対応の件、近くの工場が24時間体制で動いているので協力の依頼の声を掛けている等報告をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている。その他、日々の業務の中で悩みや不明な点が生じた場合には都度、連絡をとり助言を頂いている。	市の職員が運営推進会議に参加しているので相談がしやすい関係を築いている。要介護2の利用者が支援2に変わった時には市に相談をして、包括支援センターの協力を得て本人の希望で自宅での生活が出来た。市の主催でグループホームの集まりの会議があり参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという信念を、全職員が理解し、実施している。	全職員が身体拘束をしないケアを理解している。利用者の人数が少数でゆっくり、待つケアをしているのでスピーチロックはない。「待って」など強い口調の時等気付いた時に注意している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について職員間で研修を行い、意見交換を行っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	必要とするケースは今までにないが、知識と情報を共有できるよう、職員間で勉強会を実施している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又ははや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、改定時には書面と口頭で説明している。疑問や不明な点があった場合にはいつでも連絡していただきたいことを家族に伝え、その際は速やかに対応している。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情の窓口及び意見箱を設置している。公的な相談窓口の連絡先も書面・口頭で説明している。病院受診は原則として家族対応だがご家族の状況や希望に応じて職員が対応することもある	家族の個人的な要望、希望はその都度対応をしている。病院の受診に付き添えない家族からの要望で、職員が付き添うなど状況に応じた対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月実施し、気づきや提案を出し合い意見交換を行っている。職員と代表者及び管理者との信頼関係があり、気軽に意見を出せる関係ができています	職員会議を月1回行い、意見を聞くようにしている。職員は気づいた時にすぐ言える関係にあるので職員からの意見、要望は反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績および勤務状況を把握し、給与水準等、向上心をもって働くことができるよう職場の環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて自主的に事業所内外の研修に積極的に参加するよう促している。研修の内容にかかわらず全て勤務時間内扱いになっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修などを通じ、交流を図り、意見交換を行っている。施設見学をお互いに行ったり、職員同士での悩みなどを話し、良い刺激になっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず本人と直接会い、思いや不安について話をゆっくり聞いている。新しい環境への不安を少しでも取り除けるよう、ゆったりとした時間を作り工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族と会い、家族の思い、要望、不安を聞き、出来る限り思いに沿えるよう支援させていただくことを伝えている。特に入所当初は日々の生活状況、体調等、こまめに報告している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話をよく聞き、管理者・ケアマネージャー・職員が相談内容を確認、把握している。その後、支援全体を検討し、必要なサービス等対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの生活歴や心身状況を把握した上で日々、楽しく穏やかに生活していただけるよう支援している。人生の先輩である利用者を尊重し、職員は常に学ぶ姿勢で共に生活している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員が同じ気持ちで利用者を支えられるよう、家族の思いには常に耳を傾け、情報交換している。面会時には家族の時間、空間を大切にさせていただけるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限はなく、来訪者が面会しやすい雰囲気作り に努めている。お孫さんの面会を楽しみにされている方もおり、ご家族との外食、外出についても積極的に支援している。	昔から利用していた美容院や床屋、墓参りに家族が連れて行ったり、盆、正月に外泊する利用者もいる。また、近所の友達の面会や、家族との病院受診後の外食等、継続的な交流が出来るよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活のかかわりの中で、利用者同士の関係を把握し、孤立しがちな利用者には職員が寄り添い、コミュニケーションや他の利用者とのかかわりのきっかけになるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者や亡くなった利用者の家族の方と連絡をとったり、交流がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を日常生活の会話や表情の中で把握し、職員間で情報を共有している。本人が意思疎通が困難な場合は生活暦等をもとに、家族や知人からお話をいただき検討している	入所時に聴くことが出来なかった事は、お茶等を出しながら聞いて職員間で共有している。野菜づくりの出来る利用者から作り方の指導を受けながら、ナス、胡瓜、トマト、カボチャ等の収穫をしている。トマトなど食べきれないほど収穫が出来て、色々な料理をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話を通し、ひとつでも多く、馴染みや安心のヒントが得られるように努めている。過去のサービス利用がある方は事業所等から情報を頂いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や、心身状況等、個別記録に時間をおって記録し、生活リズムを把握している。定期的に職員間でカンファレンスを行い、「できること探し」に取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から意見を聞き、その内容をもとにケアカンファレンスを行い、一人ひとりの気持ちを重視した介護計画を作成している。	家族から情報を貰い、毎月のカンファレンスの中で情報や現状把握をし、3か月に1度のモニタリングを行い、計画の見直しを行っている。利用者の希望で毎朝のモップがけを職員と一緒にやっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録にはADL状況はもちろん、食事摂取量・バイタルチェック・排泄の記入、言動や表情から見られる精神面の記入を行い、本人の心身面の生活全体を把握している。ケア会議の中で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の病院受診や面会時の家族の送迎など、本人や家族の状況に応じて対応している。個々の希望による外出や買い物、ドライブなど出来る限り支援している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の散歩も兼ねて、地域のお店を利用している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医の利用を重視し、本人、家族の希望に応じたかかりつけ医を決めている。受診は基本的に家族対応だが、希望や状況に応じ、職員が対応している。受診結果については情報を共有している。	半数の利用者が入居前からのかかりつけ医にて対応している。定期受診は家族が対応している。状態に変化がある場合や、家族の希望で職員が同行している。受診結果は家族に電話で報告し、職員間では連絡ノートで共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師と情報交換しながら、ケアを行っている。利用者の健康管理・状態変化に応じた支援を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には職員が面会に行き、環境の変化による精神的不安の解消に努めている。病院関係者との情報交換を行い、早期退院ができるよう家族を含め都度検討している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や折に触れ、重度化及び終末期について家族に希望を聞き、事業所として出来る事、方針をお話している。職員間で勉強会を行っているが、医療行為が必要な場合、現状では入院することがほとんどである。	入所時家族に、看護師が常時勤務していない為医療行為は出来ない事の話をしているので、家族の判断に任せている。入居時に特別養護老人ホームを申請する家族もいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員指導のもと、緊急時対応の指導を受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を使い、避難訓練を実施している。近隣の工場や近所の方に災害発生時の協力を得られるよう話している。	年2回避難訓練をしている。出口が2ヶ所あり全職員が避難経路は把握している。職員の訓練は関連機関と合同で消火器等の訓練をしている。防災頭巾が食堂の椅子の背に付けてある。災害発生時に備えて近くの工場に協力を依頼している。	2階で生活をしている利用者もいます。夜間を想定して、1人体制の避難計画を立てて職員一人ひとりがスムーズに避難出来る方法がシミュレーション出来ることを期待する。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあわせた言葉かけや対応を職員全員が心がけ実施している。入浴や排泄、着衣交換については特に周りに気を配りプライバシーを損なわないよう、工夫している。	さり気なく言葉がけをしてトイレに誘っている。自分でトイレに行ける利用者には遠くから見守っている。入浴は同姓介護で対応している。失禁時は他の利用者に気付かれないように居室に誘導して対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりにあった自己決定ができる環境づくりをしている。(洋服選びや食事のメニューなど)出来る限り、時間にゆとりをもち「待つケア」を心がけ実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物など可能な限り、本人の希望に沿った時間やタイミングでの支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の洋服は本人に選んでいただいている。外出や行事の際にはお化粧をしたり、帽子など小物でのおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを一緒に考えている。調理や片付けなど個々の力に応じて参加していただいている。	利用者の好みを聞いて一週間の献立を立てている。食材の買い物も利用者の状況によって一緒に行く。盛り付け、配膳の手伝いもできる利用者が行う。日々の生活の中でイチゴやアイスクリームを近所のコンビニエンスストアに買いに行く。ホールの一角が台所なので、匂いや、料理する音が聞こえ、職員も一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった食事量、食事形態を提供している。食事量・水分量は職員が把握している。その日の状態や気候等により、量や内容など臨機応変に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、歯の洗浄、管理をしている。口腔内をチェックし問題が生じている場合は専門機関を受診している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、本人の排泄パターンを把握し、全職員が把握している。一人ひとりにあった誘導時間を検討し、無理なく快適に排泄できるよう支援している。	昼間オムツを使用している利用者はいない。排泄パターンを把握して声がけをして対応している。介護度が高く立位の出来ない車椅子の利用者も昼間はトイレでの対応をしている。便秘の利用者にはお腹のマッサージを行って便秘を防ぐように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防も含め、毎日軽体操を実施している。排便チェックを行い、便秘傾向の場合は繊維食料やヨーグルトの提供や腹部マッサージを行っている。必要に応じて主治医へ相談し対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自由に入浴できる時間を決められ、長さもバイタルに問題がなければ特に制限はしていない	一週間に3回全員が入浴をしている。入浴を拒否する利用者には職員を替えたり、声がけの工夫、入浴剤の香りで誘導等をして対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望や状態に合わせて昼寝を促したり、好きな時間、場所でくつろいでいただいている。夜、眠れない方に対しては、日中の活動でリズムを作れるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者の疾患、それに伴う服薬の用法、用量を把握している。身体状況の変化により、薬の内容に変更があった場合は都度、管理者が徹底している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族、知り合いからの話や生活歴の中から本人の楽しみごとになるものを見つけ、支援につなげている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など個々のペースや希望に合わせて外出している。	近くのコンビニエンスストアや薬局に日用品等買いに行く。また、近くの神社、幼稚園や近所の裏道等幾つかのコースがあり毎日利用者の希望するコースを散歩するようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自販機でのジュースの購入や買い物に出かけたときには自分で支払うように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて自由に電話をしていただいている。玄関先には一人ひとりの名前が入った郵便受けがある。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールと台所が近いので、食事の準備の香りが広がり食事への関心をもち、刺激になっている。季節に応じた飾りつけや思い出の写真をはり、会話や笑顔のきっかけになるよう工夫している。	ホールの一角に台所があり何時も職員の台所にいる姿が見えて利用者が自分の家で生活している様である。片隅に布団が敷かれて職員が側に座り横になっている利用者もいる。2階のホールにはゆったりできるソファが置かれ、何時でもお茶が飲めるような配慮がされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや二階にソファや小さなテーブルがあり、思い思いに自由に過ごすことができる空間がある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の意向や本人の好みにより異なるが、家で使用していた布団や家具等、使い慣れたものを持ってきていただいている。	以前利用していたベッドを使っている利用者や押し入れから布団を出し入れして対応している利用者がある。湯たんぽを使っている利用者、家族の写真ぬいぐるみ等を置くなどそれぞれの利用者の居心地の良さを配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態の変化を職員間で話し合い、都度必要に応じて居室に手すりを設置したり、安全に過ごしていただくための工夫をしている。			